

(解答はすべて解答用紙に記入すること)

次の資料は、我が国の内閣が二〇二一年（令和三年）三月十九日に閣議決定した「住生活基本計画」の概要を、国土交通省がとりまとめてウェブサイトに掲載したものである。この資料を読み、あとの設問に答えなさい。



新たな住生活基本計画の概要（令和3年3月19日閣議決定）



住生活をめぐる現状と課題

- 世帯の状況
 - ・子育て世帯数は減少。高齢者世帯数は増加しているが、今後は緩やかな増加となる見込みである。
 - ・生活保護世帯や住宅扶助世帯数も増加傾向にある。
- 気候変動問題
 - ・IPCC(気候変動に関する政府間パネル)から「2050年前後に世界のCO₂排出量が正味ゼロであることが必要」との報告が公表。
 - ・「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言し、対策が急務となっている。
- 住宅ストック
 - ・旧耐震基準や省エネルギー基準未達成の住宅ストックが多くを占めている。既存住宅流通は横ばいで推移している。
 - ・居住目的のない空き家が増加を続ける中で、周辺に悪影響を及ぼす管理不全の空き家も増加している。
- 多様な住まい方、新しい住まい方
 - ・働き方改革やコロナ禍を契機として、新しいライフスタイルや多様な住まい方への関心が高まってきている。
 - ・テレワーク等を活用した地方、郊外での居住、二地域居住など複数地域での住まいを実践する動きが本格化している。
- 新技術の活用、DXの進展等
 - ・5Gの整備や社会経済のDXが進展し、新しいサービスの提供や技術開発が進んでいる。
 - ・住宅分野においても、コロナ禍を契機として、遠隔・非接触の顧客対応やデジタル化等、DXが急速に進展している。
- 災害と住まい
 - ・近年、自然災害が頻発・激甚化。あらゆる関係者の協働による流域治水の推進等、防災・減災に向けた総合的な取組が進んでいる。
 - ・住まいの選択にあたっては、災害時の安全性のほか、医療福祉施設等の整備や交通利便性等、周辺環境が重視されている。

○上記課題に対応するため、3つの視点から8つの目標を設定し、施策を総合的に推進

① 「社会環境の変化」の視点	② 「居住者・コミュニティ」の視点	③ 「住宅ストック・産業」の視点
目標1 新たな日常、DXの推進等	目標3 子どもを産み育てやすい住まい	目標6 住宅循環システムの構築等
目標2 安全な住宅・住宅地の形成等	目標4 高齢者等が安心して暮らせるコミュニティ等	目標7 空き家の管理・除却・利活用
	目標5 セーフティネット機能の整備	目標8 住生活産業の発展

用語の説明

DX（Digital Transformation）将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して新たなビジネスモデルを創出・柔軟に改変すること。

(国土交通省「住生活基本計画」2021年(令和3年)3月19日より)

設問一 右の資料から、あなたが最も関心のある語句（例「多様な住まい方、新しい住まい方」など）をひとつ抽出し、30文字以内で記しなさい。
設問二 設問一で抽出した語句に関するあなたの所見・展望を800字以内で述べなさい。